

ギド・イエンティンスにとって、2012年~2013年のシーズンはとりわけリヒャルト・ワーグナーとジュゼッペ・ヴェルディの生誕200周年に彩られるものとなっている。ニュルンベルク州立歌劇場においてはヴェルディによるアイダのエジプト王に加え、マルケ王（トリスタンとイゾルデ 新演出）、ダーラント（さまよえるオランダ人）、ハンス・ザックス（ニュルンベルクのマイスタージンガー）を歌い、更にはデトモルト州立歌劇場でもフンディング（ワーグナー ワルキューレ）とマルケ王を歌う予定である。そして、ついに2013年夏のザルツブルク音楽祭にニュルンベルクのマイスタージンガーのコンラート・ナハティガルでデビューする。

ギド・イエンティンスは、ドイツのニーデルヘインのゲルデルンに生まれ、ケルン音楽学校に学び、歌手としてのキャリアをデュッセルドルフのオペラ座でスタートした。その後音楽祭や劇場の客員歌手として、アウグスブルク、エアフルト、カールスルーエ、ヴィーサーバーデン、ビーレフェルト、クレフェルト・メルヒェングラードバッハ、カッセル、ハレ、ドルトムント、エッセン他の歌劇場でキャリアを重ね、2005年からニュルンベルク歌劇場の専属歌手となった。

ギド・イエンティンスは、クラシックのバス・バスバリトン歌手として、ヘンリー王（ローエン格林）、ハンス・ザックスとポグナー（ニュルンベルクのマイスタージンガー）、フンディング（ワルキューレ）、ダーラント（さまよえるオランダ人）、グルマンツ（パルジファル）、そしてマルケ王といった偉大なるワーグナーのバス役の全てを歌っている。

それだけではなく、オックス男爵（シュトラウス バラの騎士）、オレステス（シュトラウス エレクトラ）、オスミン（モーツァルト 後宮からの逃走）、ザラストロ（モーツァルト 魔笛）、ロッコ（ベートーベン フィデリオ）、フィリップ王（ヴェルディ ドン・カルロ）メフィストフェレ（グノー ファウスト）といった役や、ベルカントオペラであるシルヴァ（ヴェルディ エルナーニ） バンクォー（ヴェルディ マクベス）、デ・グリユー（マスネ マノン）、そして多くのヘンデルのオペラも彼の幅広いレパトリーの一部である。

客員としてのオペラやコンサートの演奏においては、ベルリンの3つの歌劇場（ベルリン国立歌劇場、ドイツオペラとコーミッシェ・オパー）とハンブルク歌劇場（ゲルト・アルブレヒトの指揮によるツィムリンスキーのオペラ カンダレウス王の世界初演）、ドレスデンのゼンパーオーバー（マトゥスのファリネッリ）、ミュンヘンのゲルトナー・プラッツ州立劇場とプリンツレグンデン劇場、そしてケルン市交響楽団やライプツィヒのゲヴァントハウス管弦楽団などにおいてオペラやコンサートに出演した。

ドイツ国外においても、ベルギーはブリュッセルにおけるアイダ（大野和士）、フランス（パリのシャンゼリゼ劇場とトゥールーズ市立劇場でのピンチャス・スタインバーグ指揮によるニュルンベルクのマイスタージンガー）、イタリア（パレルモ）、スペイン（バルセロナのカタルーニャ音楽堂）、アメリカ、日本（大野和士指揮の新国立劇場でのトリスタンとイゾルデ）、香港などでの出演がある。

合わせて主要な音楽祭にも定期的に出演している。バイロイト音楽祭ではティーレマンの指揮でニュルンベルクのマイスタージンガーのポグナー、タンホイザーの領主ヘンマンを歌っており、バーデンバーデン音楽祭ではトーマス・ヘンゲルブロックと、更にはカールスルーエのヘンデル音楽祭、セント・マーガレット音楽祭とエール音楽祭（2011年にグスタフ・クーン指揮の元でハンス・ザックス役にデビュー）、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、プエルトリコのカサルス音楽祭にも出演した。

コンサートツアーとラジオ録音においては、特にヘルムート・リリング（インターナショナル バッハ アカデミー）、トーマス・ヘンゲルブロック、ミヒャエル・ギーレン、クリストフ・プリックとの共演が挙げられる。また、バッハのミサ曲ロ短調、ヘンデルのメサイア、メンデルスゾーンのイリア、プッチーニのグロリア・ミサ、ティベットのわれらの時代の子、その他オラトリオ、カンタータそしてミサ曲も数多く歌っている。

（2013年2月）